新潟産業大学 Niigata Sangyo University 地域に学び、地域をおこす

2022年度地域理解ゼミナールⅢ 合同発表会

地域文化分野　発表者：全員

発表テーマ

「地域社会形成と災害対処の文化」

担当教員：小林健彦

2022.7.21

地域社会経営を巡る困難克服と文化

そこでは、古来、様々な災害が発生し、その度に住民は被害し、又、繰り返してそこよりの復旧、復興に当たってきたのである。その様な特性、又、降水量の多さ等の要因に依り、ここでは、水に起因した《水災害》が多発したというたてよこもある。
自然災害、際限の無い苦難に見舞われ、その度に住民等を苦しめて 、ただ、日本で多発している地震に限定してみた場合、一定の周期や活動の存在が明らかになりつつある。又 、海底を震源とした地震に付随した災害としての、津波は、時として瞬間的に多大な人的、物的被害齎す脅威として、人々に認識されてきた、しかし、民衆はそれらの災害を乗り越えながら、現在に続く社会を形成し、維持、発展させてきたのである。

はんほんえん

特に文字認知が未発達な時期に在っては、それらの災害情報を、如何にして子孫に伝達するのかが大きな課題であった。日本人に依る地域社会の形成は、こうした災害に依る被害と、その克服の歴史であると言っても差し支ないであろう。

はんほんえん

文字認知と災害情報伝達

・災害を対象とした物語や作品は多くなかった。
・絵入りの短編物語の御伽草子や絵入りの奈良物語はどちらも庶民を読者対象とした。
・これらは文字認知の上昇を前提としていた反面、絵が多様されていたことにより、文字認知が不可能な人も購読対象とした。

無常観と日本人

- 無常観や厭世観の形骸化に伴いそれ以降の時期には、現在や将来に向けての不安に対処する為の、新たな心の拠り処。
- 救済を求める意識の本流を形成し、為政者層等をして、その様な行動に走らせていたと見ることも可能である。

文責　井開椋馬

東日本大震災と「浪分けの倫理」

浪分け＝津波浸水線

文字認知が未発達な時期に発生していた津波災害に対して、人々がどのような対処をしていたのか

・賑給（しんごう／しんきゅう）－被災者に、米や塩を支給する厚生事業

・緯書（中国製の本）を元に未来予想図を描く

震災遺構と地域社会

震災遺構（しんさいいこう）とは、震災が原因で倒壊した建物を、次世代に向けて震災が起きたという記憶や教訓のために、取り壊さないで保存しておくというもの。

非常に有効な情報伝達手法

但し、保存していくことには賛否両論がある

理由：メンタル面、ランニングコスト

上原大和

津波の教え石と地域社会を守ること

•石碑「2011年．３．１１　津波の教え(石)」
「ここにも津波は来る。～」

•閖上地区震災犠牲慰霊碑
東日本大震災の津波と同じ高さ
８．４メートル

新潟県中越沖地震と教訓の風化

- 2007年　中越沖地震
- 喬柏園(旧柏崎公会堂)　改修
- 発生から5年　教訓の「風化」

文責　清水寛太

情報伝達における語り部の方法論

通信技術、文字認知が発展した現在でもなお、語り部、語り人が災害情報を後世へ伝達する方法。

情報伝達における「～の日」の方法論

2011年6月に制定された「津波対策の推進に関する法律」において、広く津波対策について理解と関心を深めることを目的をして、毎年11月5日を「津波防災の日」とさだめるといった伝達方法。

文責　杉山和也

新潟県柏崎市「荒浜」研究

- １９７５年３月全漁連及川会長が原産会議年次大会において「温排水影響問題について徹底した調査研究の途を拓くべし」との提言。
- 柏崎市の沿岸にあり発電所が取水する海水と放出する温排水を利用した飼育試験施設があり、これらを用いて海域環境の変化や化学物質などが海洋生物に与える実験的評価している。
- 併設する温排水資料展示館では、発電所の温排水が海洋生物に及ぼす影響についての研究成果などを展示している。

新潟県阿賀町における事例

- 阿賀町は、人口１０,０３２人、中山間地域および特別豪雪地域に該当し、人口減少や少子高齢化の進行が著しい地域。

- 町中心部から遠い山間部に散在する集落が多いことから、高齢者の日用品などの買物・医療へのアクセスについて、歩く以外の効率的な手段を提供することが課題となっている。

２１１３０４９　新田　樹

柏崎町形成の謎

- 黒姫山より発する鵜川が河谷平野を形成しながらほぼ北流し柏崎の平野部に出て日本海に注ぐ

- 地内には、真言宗五、禅宗三、法華宗二、浄土宗四、浄土真宗七、時宗一の多数の時々がある
- 東正也

柏崎の町方としての本町の来歴

1878、9月 5 日柏崎電信分局開局
1879、5月5日刈羽郡役所開設
1880、4月5日集会条例を定める
　　4月8日区町村会法を定める
1885、4月18日専売特許条例公布
1886，6月10日渋沢栄一来柏、エンマ市の賑いに驚く

東正也

柏崎町の謎の荒廃

・「谷川新田」と呼ばれた棚田跡地に並ぶ約１５００本の八重桜がある。

・荒れた棚田を華やかによみがえらせようと、市民グループが植樹を始めて２０年余り。

・新潟県柏崎市清水谷の黒姫山の中腹にある。

災害由来地名としての荒浜と松波

- 災害地名とは、現地で起こった自然災害が由来とされる地名のこと。
- 過去の災害の経験を後世に伝える史料の一つとして評価されるが、その取り扱いには繊細な注意が必要とされている。
- 自然災害や地形の形状からつけられた「地名」は、自然災害への戒め、警告、メッセージともされている。

椎谷観音と海底世界、水災害

- 椎谷観音とは柏崎市荒浜地区の北方に所在する椎谷地区にある真言宗豊山派の大辻山正福寺華蔵院のことである。
- 本尊である正観音像は弘仁２年(８１１)に、村民が海中より引き揚げたものであるという。
- 水の中より神体や仏像を発見し、それが何らかの水災害、政争との関係性の中で語り継がれてきた。その背景には当所を襲ってきた津波や崖崩れ、土石流といった水災害があるかもしれない。

文責　佐藤諒太郎

柏崎地域の地形図を読み解く 特徴①

- 国土地理院に依る、1：25.000地形図を見ると荒浜地域を包括する柏崎市、刈羽村地域において幾つかの地名より解読される特徴がある。
- その一つが、他の地域においては比較的残存している、中世期由来の地名がほとんど見当たらないことである。
  - 例えば、在家等である。これは当所だけではなく、新潟県の沿岸、平野部における共通した特質である。

文責　佐藤諒太郎

柏崎地域の地形図を読み解く②、③

- ②当地域では、地名に植物由来の文字を用いることが多いという特徴がある。
- それらは、柏崎を始めとして藤（藤井、藤橋、藤元）、茨（茨目）、槇（槇原）、桜（桜木）、松（松波、松美）、柳（柳田）、椎（椎谷）等でありこの地域の地表面の元来の形状や成立を連想させるものがある。

- ③色を表す地名は赤（赤坂）、緑（緑町）であるが、赤坂の赤色は赤土質の土壌に由来している可能性がある。
- 色彩感覚において赤色は鉄の存在をしさしている場合もある。
- 色彩感覚が地名に反映されたものとして見られている。

軽井川製鉄コンビナートと災害

- 平成１５年から１８年にかけ軽井川南製鉄遺跡群の発掘調査が行われた。
- ３５遺跡中２２遺跡が奈良時代から鎌倉時代にかけての製鉄関連遺跡であると判定されるに及びそれらの製鉄コンビナートとしての姿が明らかとなった。
- 精連、鋳造、鍛治関連集落に関わる製鉄産の工程や全容をうかがうことができる遺跡として注目された。
- ところが１０世紀中頃製鉄コンビナートの製鉄作業が中断された。１０世紀中頃から同後半期にかけ木炭がほとんど検出されていないことが根拠となっている。
- 若山　涼

中越沖地震被災後の石井神社　壊れた鳥居　小林先生撮影

ご清聴頂き感謝申し上げます！！！